

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520431

研究課題名(和文)中国古典文学におけるタブーの基礎的研究

研究課題名(英文)Basic research of the taboo in Chinese classical literature

研究代表者

釜谷 武志(kamatani, takeshi)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：30152838

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：中国古典の詩や賦を解釈する際に、諷諭作用が強調されてきたが、その一因として男女間の愛情表現に対するタブーの意識がある。『詩経』の恋愛詩を、君臣関係の隠喩表現であると解釈されてきたことはよく知られているが、宋代・明代の作品においても女性美の直接的な描写を避ける等、同様のタブーの意識が見られる。陶淵明においては口語的・俗語的表現を詩に用いたこと、杜甫においては異民族の奴隷を詩の主人公として取りあげた等、それまでの詩のタブーを大胆に打破した点において、革新性を見出すことができる。

研究成果の概要(英文)：When interpreting the Chinese classical poetry and rhapsody, it was emphasized that an action of indirect admonishing was in them. One of the causes by which such a forcing interpretation was made is existence of the consciousness of the taboo to the love expression between men and women. The love poetry of Book of Songs has been interpreted as a metaphor representation of sovereign and vassal relationship to avoid the direct expression of love. The consciousness of the same taboo is seen also in the work of the Song Dynasty and Ming Dynasty, such as avoiding direct depiction of feminine beauty. Tao Yuan-ming used colloquial expression for the poetry, Du Fu took up the slaves of different ethnic groups as the hero of the poem. Innovation can be found out in the point of having overthrown the taboo of the poetry in their works.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論

キーワード：中国文学 避忌 規範

1. 研究開始当初の背景

(1) 中国古典文学は、日本古典文学や西洋文学と比較して、それらとの共通性よりも特殊性が強調されてきた。たとえば『源氏物語』に代表される日本文学は、男女の恋愛を主要なテーマとするのに対して、中国古典文学には男同士の友情をテーマとする作品が多いが、恋愛描写は極めて少ないと言われる。

(2) この現象は、中国の伝統的な詩文では恋愛に関わる内容を記すべきではないという、一種の規範意識が作用していたことに起因する。つまり恋愛を描くことがタブーと考えられていたのである。

(3) 中国文学におけるタブーでよく知られたものには、近体詩における平仄の規律、高位にある人物の本名を避ける、いわゆる避諱字があり、これらについてはすでに多くの研究がある。

(4) しかしながら、古典文学におけるタブーをまとめて考察した例は、これまでにあまりないと考えられる。民間歌謡においては恋愛が豊富に取りあげられるし、時の権力者に対する諷刺や揶揄を遠回しの表現で行っている。こうした例を視野に入れないのでは、中国文学の研究は不十分である。

(5) 本来は、広く中国思想や歴史学、文化人類学の研究者とともに多方面から研究を進めるべきテーマであるが、その前提としてまず古典文学を対象をしぼって基礎的研究を行う。

2. 研究の目的

中国古典文学作品において、伝統的な詩文を主な対象として、表現面と内容面の双方からタブーとなる事例を捜求し、いかなる特性があるのかを明らかにする。それとともに、詩文の創作背景と受容形態を考察対象に入れて、タブーが存在する社会的、文化的背景を考える。タブーなる忌避されるものを考察することで、逆に当時の規範意識がいかなるものであったかをより明確にすると同時に、中国文学の特質を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 死をめぐるタブーについて

先秦から唐代にかけての文献を対象にして、死に関する禁忌の意識がどのようなものであったかを考究し、併せて文学作品に現れる死とそのとらえ方について考察する。

(2) 杜甫の詩におけるタブー

杜甫詩の韻律の規則を禁忌の面から研究するとともに、韻律以外の禁忌についても考察を行う。

(3) 女性をめぐるタブー

具体例に基づいてジェンダー性の研究を行う。『列女伝』、漢魏六朝の女訓、家訓類を対象として、それらに見られるタブーを収集して、女性にかかわる禁忌を考察する。

(4) 政治と男女のタブー

先秦から漢魏にいたる文献を中心に、本来は男女の恋愛感情を歌っていた詩を、政治的な文脈において解釈する過程を追跡し、その中にひそむタブーについて考察する。

(5) 口語性の強い作品にかかわるタブー

口語性の強い民間歌謡には、さまざまなタブーがある。それらを伝統的な作品と関連づけて考察することで、タブーの機能について考察する。

4. 研究成果

(1) 漢代の詩や賦には絶望的な悲哀の感情が支配的であるが、その根底には生死についての広義のタブーが存在していたことを明らかにした。それは、人間の行為そのものにとどまらず、親や祖先の行為が善悪双方において子孫に影響を及ぼすとの考えである。人間の運命はすでに定められているがゆえに、本人の努力ではどうすることもできず、悲哀に沈まざるを得なくなる。かかる考えは通常は表面に出てこないために、把握することが容易でない。

(2) 古典文学の詩や賦を解釈する際に、諷諭作用が強調されてきたが、その一因として男女間の愛情に関するタブーの意識がある。『詩経』で恋愛を歌ったと考えられる詩に対して、漢代以降、君臣関係を喩えた隠喩表現であると解釈されてきたことはよく知られている。こうした作品以外にも、宋代・明代の作品において女性美の直接的な描写を避ける等、同様な意識が見られることを明らかにした。

(3) 陶淵明は詩の中に、多くの俗語・口語的表現を用いている。当時はこうした語彙を詩に持ちこむことは一種のタブーであった。陶淵明がそのタブーを打ち破ることができたのは、従来の固定的な風景観ではなく、対象への視線が次々に移動するのびやかな風景観を持ち得たことと無関係ではないと考えられる。こうした語彙の使用は宋代の詩人と共通する点であり、彼の作品が宋代になってから本格的に評価される要因の一つでもあ

ろうことを論じた。

(4)唐代の杜甫は、従来の詩のタブーを破ったことで知られる。それは形式面よりも内容面においてである。「三絶句」其の三では、自国民を守るための皇軍が逆に自国民を虐殺していることを批判している。また異民族の奴隷を主人公として取りあげた詩もある。杜甫の詩は、皇軍の実態を描く点や人に対する博愛平等の見方においてこそ、大いに革新的であることを明らかにした。

(5)唐代の白居易は、「雕蟲の戯」なる表現を用いている。雕蟲の技や芸といった従前よく用いられた語ではなく、戯なる語を新たに使う点においても、タブーを打破する白居易の特性をうかがうことができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 13 件)

林香奈、福山泰男著『建安文学の研究』、集刊東洋学、査読無、No.110、2014、pp.82-95

古川末喜、杜甫の詩と生活(四)、佐賀大学文化教育学部研究論文集、査読無、No.17-2、2013、pp.15-48

林香奈、雕蟲考、「異文化共生学」の構築 異文化の接触・交渉・共存をめぐる総合的研究、査読無、2013、pp.13-25

林香奈、黄遵憲「日本雜事詩」訳注稿(十八) 未名、査読無、No.31、2013、pp.117-132

釜谷武志、杜甫の中の陶淵明、中国文学報、査読無、No.83、2012、pp.160-174

古川末喜、杜甫の詩と生活(二)、佐賀大学文化教育学部研究論文集、査読無、No.17-1、2012、pp.15-40

古川末喜、杜甫の詩と生活(三)、佐賀大学文化教育学部研究論文集、査読無、No.16-2、2012、pp.15-36

林香奈、南宋雜事詩、京都府立総合資料館蔵 古典籍についての文献調査研究、査読無、No.1、2012、pp.67-72

林香奈、百美新詠図鑑、京都府立総合資料館蔵 古典籍についての文献調査研究、査読無、No.1、2012、pp.73-79

林香奈、黄遵憲「日本雜事詩」訳注稿(十七) 未名、査読無、No.30、2012、pp.123-133

釜谷武志、兩漢時期的思想与文学、復旦文史講堂、査読無、No.4、2011、pp.77-90

林香奈、黄遵憲「日本雜事詩」訳注稿(十六) 未名、査読無、No.29、2011、pp.145-151 pp.158-164

林香奈、隋書音楽志訳注稿(五)、中国学研究論集、査読無、No.26、2011、pp.1-11

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 3 件)

林香奈 他、人文書院、増補改訂版中国女性史入門 女たちの今と昔、2014、227(9-60,22-23,34-35,62-63,84)

古川末喜 他、研文出版、生誕千三百年記念 杜甫研究論集、2013、463(7-37)

釜谷武志、岩波書店、陶淵明 距離の発見、2012、211

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

釜谷 武志 (KAMATANI, Takeshi)

神戸大学・大学院人文学研究科・教授

研究者番号: 3 0 1 5 2 8 3 8

(2) 研究分担者

古川 末喜 (FURUKAWA, Sueki)

佐賀大学・文化教育学部・教授

研究者番号: 6 0 1 4 1 8 5 0

林 香奈 (HAYASHI, Kana)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号: 3 0 2 7 2 9 3 3

(3)連携研究者 ()

研究者番号：